

別表第1（第5条関係）

事務事業評価シート

評価対象年度 平成 20 年度

【事務事業の基本的事項】

事 務 事 業 名	単位老人クラブ活動費補助金					
担 当 課 係 名	長寿子育て課		長寿いきがい係		作成者	富岡 美津子
総 合 計 画 で の 位 置 づ け	施策の大綱	全ての生命を慈しむ健康福祉のまち				総合計画の ページ
	基本計画	高齢者福祉と介護保険事業の充実				
	主要施策	地域ケア体制の構築				54
予 算 費 目	一般 会計	3 款 民生費	1 項 社会福祉費	3 目 老人福祉費		
事 業 期 間	平成 年度 ～ 平成 年度		新規／継続の区分		継続	
性 質 区 分	☐ 市民サービス ☐ 公共事業 ☐ 施設維持管理 ☒ 補助金 ☐ 内部管理					
根 拠 法 令 等	老人福祉法、厚生労働省平成13年10月1日老発第390号「老人クラブ活動等事業実施要綱」					
事 務 区 分	☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務					
運 営 方 法	☐ 直 営 ☐ 直営（一部民間委託） ☐ 民間委託(全部) ☒ 補 助					

【事務事業の実施内容】

事業の対象 (誰のため・何を)	仙北市単位老人クラブ 葉桜会他48クラブ
事業の目的・意図 (どういう状態にしたいのか)	本事業を通じて老人クラブ活動の一層の活性化を図り、高齢者の生きがいや健康づくりを推進することにより、明るい長寿社会の実現と保健福祉の向上に資することを目的とする。
事業の内容 (どのような業務、活動を行うのか)	根拠法令要綱に沿った事業を行う老人クラブに補助を行う。

【事務事業の推移】

	項 目			単位	18年度実績	19年度実績	20年度実績	
効果	活動指標	老人クラブ 会員数	目標	人	2,689	2,689	2,792	
			実績	人	2,689	2,792	2,792	
			達成度	%	100.0%	103.8%	100.0%	
	成果指標	単位老人クラブ 数 (適正クラブ数)	目標	クラブ	50	50	50	
			実績	クラブ	50	50	49	
			達成度	%	100.0%	100.0%	98.0%	
投下コスト	項 目		総事業費		18年度決算額(千円)	19年度決算額(千円)	20年度決算額(千円)	
	事業費（人件費を除く）(A)				2,328	2,328	2,282	
	人 件 費 (B)		—		785	807	793	
	職 員 数		—		0.10	0.10	0.10	
	職 員 平 均 人 件 費		—		7,853	8,071	7,925	
	(A) + (B) 投下コスト				3,113	3,135	3,075	
	財源内訳	国 庫 支 出 金				393	309	323
		県 支 出 金				393	308	322
		地 方 債				0	0	0
		そ の 他				0	0	0
		一 般 財 源				2,327	2,518	2,430
	単位コスト	活動指標1単位当たりコスト(円)		—		1,158	1,123	1,101
		市民1人当たりのコスト(円)		—		98	100	99

【事務事業の今までの成果】

老人クラブは、地域を基盤とする高齢者の自主的な組織である。それぞれの単位老人クラブで、友愛訪問、清掃奉仕、地域見守り、教養講座開催、スポーツ活動を行うことで、高齢者を主体とする介護予防と相互の生活支援を推進している。

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	他市町村でも同等の補助を行っているが、国県補助率が減少傾向にあるため、一般財源の負担割合が高まっている。
事業に対する市民の意見 (事業に対する期待、要望、苦情等)	老人クラブを通じて高齢者の生きがいや健康づくりを推進しており、団体から補助拡大の要望を頂いている。

【一次評価】

判 定	事 業 の 方 向 性	判 定 に 至 っ た 理 由
B 2	A 現状のまま継続（実施）	高齢者の介護予防と相互生活支援の観点から その活動と役割が今後も期待されるため、事業の方向性は継続とする。
	B 1 見直しの上で継続（拡大）	
	B 2 見直しの上で継続（手段改善等）	
	B 3 見直しの上で継続（縮小）	
	C 1 大幅な見直しの上で継続（拡大）	
	C 2 大幅な見直しの上で継続（手段改善等）	
	C 3 大幅な見直しの上で継続（縮小）	
	D 休止・廃止（統合を含む）を検討する事業	
	E 終了（完成及び目的を達成し終了した事業）	

※一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容（改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。）

仙北市老人クラブ連合会に対し、補助の目的と意図を明確に伝え、効果が下がらないよう工夫を求めている。

【二次評価】

判 定	判 定 に 至 っ た 理 由
B 2	高齢者の生きがいや健康づくりの推進のため必要な事業であり、補助効果の検証も踏まえつつ継続すべきものと考えます。

一次評価診断図

